



令和7年1月17日
茨城県農業総合センター園芸研究所

(令和6年度園芸研究所主要課題現地検討会・いばらき農業アカデミー)
イチゴにおける「データ活用による栽培支援技術開発」及び
「夏秋期高温に対応した早期出荷・連続収穫技術開発」に関する現地検討会

目的：園芸研究所では、本県の主要園芸品目であるイチゴについて、生産性を高めるために気温・日射量・CO₂等の環境モニタリングデータを活用した栽培支援システムの開発や、近年の夏秋期の高温化に起因する開花遅延対策として、育苗方法の改良及びクラウン冷却等による、早期出荷・連続収穫技術に取り組んでいます。

そこで、技術導入に意欲的な県内イチゴ生産者、普及指導員、JA等の関係者を対象とした検討会を開催し、研究内容及び成果の紹介や検討を行います。

日時：令和7年1月24日（金）13:30～15:30（受付13:00～）

場所：農業総合センター園芸研究所大会議室、所内ほ場

内容：1. 園芸研究所野菜研究室で取り組んでいるイチゴの試験課題について
2. データを活用したイチゴの栽培支援技術の開発
3. 気化冷却を利用した育苗容器と短日処理による花芽分化促進技術
4. 早期出荷・連続収穫に向けたクラウン冷却技術
5. ほ場見学（雨天決行、荒天の場合は当日会場にて中止をアナウンスします）

参集範囲：県内イチゴ生産者（県いちご経営研究会会員含む）、茨城県農業経営士協会（施設野菜部会）、全農茨城県本部、茨城県農業協同組合中央会、JA及び農林振興公社、県関係機関担当者等

<参考資料>

○イチゴ栽培支援システム開発及び夏秋期高温に対応した育苗管理技術開発の経過

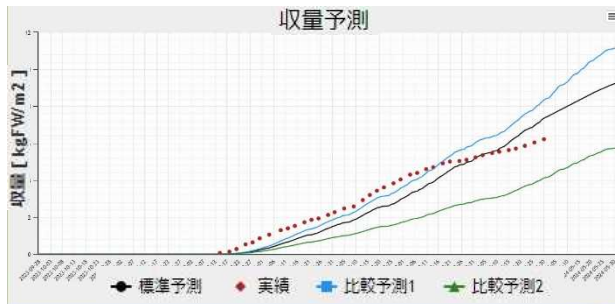


図 イチゴ栽培支援システム試作品画面の例
収穫開始期から終期まで、積算収量の予測や標準収量、実績値の表示が可能。

写真 昨年7月に開催した、イチゴ夏秋期高温に対応した育苗管理技術開発に係る所内試験温室見学の様子（生産者及び県関係機関が参加）

<本件に関するお問い合わせ>

茨城県農業総合センター園芸研究所（代表）TEL 0299-45-8340・FAX 0299-48-2545

- ・研究調整監（寺門）E-mail：i.terakado@pref.ibaraki.lg.jp
- ・野菜研究室直通 TEL 0299-45-8341（担当：栗田）

【関連用語の説明】

○環境モニタリングデータ

イチゴのパイプハウスに環境モニタリング機器を設置することにより、ハウス内外の温湿度、日射量、二酸化炭素濃度等を連続的に自動計測・記録したデータのこと。一部の環境モニタリング機器においては、携帯電話回線を利用したデータ転送契約等を行うことで、クラウドサービス上にデータが蓄積され、遠隔地からでも PC や携帯電話等でハウス内環境を確認することができる。

○データ活用による栽培支援技術開発

環境モニタリングデータを活用してイチゴの生育をシミュレーションすることにより、収量を予測し、生産者の栽培管理・出荷計画における判断を支援する技術のこと。イチゴの適切な生育制御、収量や品質の向上等、イチゴの生産性向上を目的とする。

○イチゴの花芽分化促進

イチゴの花芽分化には、短日条件（昼長 12～13 時間以下）と、気温の低下（日平均気温 約 25℃以下）で、花芽形成が進むことが知られており、長日条件下や高温下では、花芽分化は阻害される。

近年 6～9 月の育苗期の高温化に起因するとみられる、イチゴ花芽分化の遅れとその後の開花及び収穫遅延は、生産現場では非常に大きな問題となっている。

本研究では、その対策として、気化冷却効果をねらった育苗容器やかん水方法の改良、本ぼ定植後のイチゴ苗の株元（クラウン部）に冷水を流したチューブの設置、遮光の組合せ等によりイチゴの花芽分化を促進させることで、イチゴの早期出荷・連続収穫技術の開発に取り組んでいる。